夏の風物詩ともいうべきパールにはもう何回参戦して来たのだろ?昨年は夜じゅう強風が吹いてオールハンズを余儀なくされた。へとへとで陸にあがって慰労会の後、クーラーの効いたカラオケ屋で僅かな仮眠をとって帰郷する強行軍。なんとも後味の悪さは記憶に新しい。レースが終わった時点でだれもが、もう来年は無い、と口には出さずとも意識は硬かったと思う。ただ私だけはどうしても納得が行かない!ここ数年の総合優勝艇にこのクラスの船がいるからだ。

この思いが参戦回数を忘れさせるくらいパールに固執してきた所以だ。しかるに、このまま終わっていいのか?と自問自答を繰り返す日々が続いて、春になると恐る恐る皆に問いかける。「え~っ?」てな感じで素っ気無い!参戦の可能性は極めて低かった。

そこで意識改革策として新人を加える事を画策するとスナイプと 47 の経験者が乗りたいと言ってきた。パールまで数か月の練習を計画して実際に帆走しながら NEW DB チームを結成した。十分な練習をする時間は無かったが、何とか形になって当日を迎える事が出来た。新人君達には大型艇が数十杯集まるレースの経験はなく、ましてやオーバーナイトの外洋レースは初めてだ。60 フィートの DMG MORI に興奮を隠せない緊張のスタートは下側、パールでは本部艇側になるが、いいスタートが切れた。





(60 フィートの DMG MORI)



(スタートは下スタート)



(ようやくスピンアップ、そしてダウン)

スタートから仮想ポイント回航まで大型艇の影響を受けてタックのタイミングで後続艇に追い付かれたり、序盤から心拍数も上がる展開になった。仮想ポイントを回れば南風の一本で、アビームが長く続く。こうなると大型艇はどんどん先に行ってしまい、我々とはみるみる離れてゆく。少しでも風が後ろに回ってくれたらスピンが上がるのに!新人君達は紺碧の海の青さと、やがて頭上に現れる満天の星、天の川にしばし見とれて、初パールの魅力に溶けていった。過去の自身がそうだった様に!

然し、今は違う、他艇が何ノットでどっちに走っているかが AIS で一目で分かる。夜になってその情報から皆に動揺が走った。目前を南に横切って行った船が早い!闇の中をあっという間に先に行かれてしまった。新人君達の事を考えて夜間のスピンは危ないと思っていたが、甘かった!慌ててスピンを展開するが先行艇とは離れるばかり、万事休す!明るい御前崎の灯台を後方に見る頃にはうっすらと明るくなった東の空の下に利島を見つけることが出来た。夜中、Hに付いて行った B が何故かすぐ後ろにいた。さぁ、これから第3コーナーを回ってゴールへのアプローチ開始。

昨年は江の島付近に風が無く苦労したことが頭を過ぎるが今年は違う!大島を越えて風は徐々にあがって20 ノットを越えてきた。そろそろスピンをやめてジブにと言ってた矢先ブローチング!切り上がってスピンがフォアステイに巻き付いてしまった。皆で必死に解消しようとするが上手く行かない。それでもスピンポールを下すとラッキーにも解けて回収すことが出来た。No3 を上げて走り出すと後方でジェネカーをばたつかせているBの姿があった。大きなうねりと波に乗ったプレーニングでMax12 ノットの表示を見て皆興奮した!中々確認できなかったフィニッシュラインの小さなリミットマークを発見して16時22分32秒、明るいうちにフィニッシュできたのは幸いだった。

帰着申告を出しに行く桟橋で K 君とすれ違った!「早かったねぇ」「夜中スピンあげてましたか?」「あれで前に追い付いたんですよ!」歯切れのいい問いかけの笑顔に心が折れた。陸にあがってサポート隊にホテルへ運んでもらい近くの中華料理屋で反省会。話の核心は相模湾のブローチングで、あれがいかん!これがいかん!と反省しきりだった。陸組も海組も明日に備えて早めの就寝。

海組は6時半には江の島を出航。順調だった回航も稲取まで来ると強い南風と三角波に行く手を阻まれて翻弄された。携帯に数件留守電があることに気付き返信するとJSAFから「表彰式に出て欲しい」との事?そんな成績では無い筈なのになぜ?「HP見て下さい」と短いやり取り、HPを確認するとクラス3位とある。青天の霹靂か?直ぐに陸組車内に連絡、どよめきが沸き上がった!しばし興奮は冷めなかったが、いわゆるタナボタで走りでいえば決して褒められたものではない。多くの改善点はあるが、誇れることは全員が無事で船体もセールも無傷で完走できた事!これに尽きると思う。さぁ、来年はもういいだろうと皆、思っているが、時が経つにつれて憧れはどう変化するのか?パールの魅力はそう簡単には離してくれないそ!

ただ、それを今の所は誰も分かっていない。